

# 春のあしおと



立春も過ぎ、一日一日と日が長くなってくると、春の間近いことが実感されるこの頃である。しかし、秋田は80数年ぶりという大雪。まさに 早春賦の歌詞そのままに「さては時ぞと思うあやにく、今日も昨日も雪の空」である。

そんな中、久しぶりに晴れた日曜日、外へ出してみた。空の明るさ。穏やかだが力強さを感じる日差。綺麗とはほど遠いが、長く待ち望んだ雪の溶けた路面。柔らかな日差しの中、日光に映える除雪された人工の雪山さえも何故か心が明るくなる。まさに春近しである。

一寸、温室の中に入ると鮮やかな色とりどりに咲き誇るシクラメンの彩り。様々な蘭の花々。一步外へ出て望見される遠くの山々が墨絵の世界であるだけに眼に眩しい。

家に戻ろう。間もなく雛祭り。家内の手作りの雛人形が出迎えてくれる。気候が厳しければ尚更、春の温かさが身にしみる。春になれば.....、何でも解決出来そうな気分になる。不思議だ。

そんな希望を持たせる物を集めてみた。

# NST活動開始

Nutrition Support Team (NST: 栄養サポートチーム)

栄養管理を的確かつ積極的に行うと、これまで救命できなかった重症患者さんを救うことが可能になったり、あるいはもっと容易に回復させたりすることができます。そこで当院でもチーム医療で栄養管理を実施するNST(nutrition support team; 栄養サポートチーム)が誕生しました。

昨年(2017)の9月より

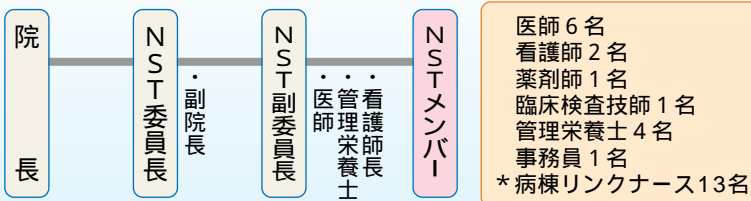
投薬・手術などの処置のみでなく、患者の社会的背景・全身状態などを全体的に把握し、適切に対処しながらの治療が必要。

医師・看護師・薬剤師・栄養士などのチーム医療での対応なしでは治療効果半減。

『食』は生命維持の根幹。栄養管理の欠落した治療は考えられない。適切な栄養管理を行い、これを支援することで免疫機能が向上し、治療効果も促進され、ひいては在院日数の短縮に繋がることを目指して活動を開始しています。



## 市立秋田総合病院NST組織図



毎週1回全患者さんの検査データを基に、栄養状態に問題のある患者さんを対象にスタッフで話し合い、必要な患者さんにはベッド訪問し、目で見て手で触って状態を良く把握し、一番良い栄養管理方法を担当医に提言しています。スタッフは職種にかかわらず栄養療法に携わる者として必要な基本知識を習得し、各職種の専門性を生かした栄養療法を患者さんに実施しています。これからも、患者さんの早期退院に向け愛のある医療に邁進していききたいと思います。

## その2「病理診断」ってなあに?

### 1. 細胞診断(細胞診)

肺がんや膀胱がんでは、痰や尿の中にがん細胞が混じることがあります。痰や尿を顕微鏡で調べてがん細胞があるかどうかを判断するのが細胞診です。その他、子宮がん検診では、子宮頸部から細胞をこすり取って調べます。また乳腺にしこりがあると、細い針を刺して吸引し、とれた細胞の中にがん細胞があるかを調べます。当院では細胞検査士(2名)が異常な細胞がないかを調べ、異常な細胞が、がん細胞かどうかを細胞診専門医資格をもつ病理専門医(1名)が最終診断しています。

### 2. 生検組織診断

治療方針を決めるため、胃・大腸、肺の内視鏡検査を行って組織の一部をつまみ採ったり、皮膚などにできものができたときに、その一部をメスなどで切り取ったりして、病変の一部の組織を顕微鏡でみれるよう、標本にします。この検査を生検といい、その診断を生検組織診断と呼びます。当院では病理専門医が診断した後に診断書を作成して主治医に渡しています。



# とくはつせいけっしょうばんげんしょうせいしはんびょう 「特発性血小板減少性紫斑病と ピロリ菌除菌療法」



ピロリ菌といえば、胃潰瘍との関連で有名な細菌ですが、近年この細菌と他の疾患の治療上での関連が知られてきております。血液・腎臓内科の中山先生にこの疾患についてお聞きしました。

## 血小板の役割と血小板減少

血小板は血管が破れた時に、破れた部位に粘着し、傷口を塞いで出血を止める働きをしています。血小板数が減少すると止血作用が弱まり、出血が止まりにくくなります。血小板減少の原因で最も多い疾患は特発性血小板減少性紫斑病（ITP）です。

## ITPのこれまでの治療

ITPでは副腎皮質ステロイド（プレドニゾロン）を服用します。服用すると1週間程度で血小板数の増加が始まり、1ヶ月程度で血小板数が正常近くまで回復する場合がありますが、問題なのはプレドニ

ゾロンを減量すると再び血小板数が低下してしまう例が多いことです。そのため、プレドニゾロンを何年も飲み続けることになり、プレドニゾロンの副作用で骨粗鬆症になり、腰痛のため一生悩まされることとなります。

## ITPのピロリ菌除菌療法

健康成人では胃の中にピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）が半数以上で検出されます。ITP患者でも健康成人と同様に60%でピロリ菌が陽性です。ピロリ菌陽性のITP患者ではピロリ菌除菌療法（7日間の服用）を施行すると、60%の患者で血小板数が増加し、その後の治療が不要になります。なぜ、血小板数が増加するかは現時点では医学的に解明されていませんが、除菌療法後にピロリ菌が残ると血小板数が増加しないことから、除菌療法に使用した薬で血小板数が増加しているのではなく、ピロリ菌がいなくなったことで血小板数が増加すると考えられています。



ピロリ菌  
「Helicobacter pyloriの最新知見」  
竹本忠良監修 日本消化器病学会編集より

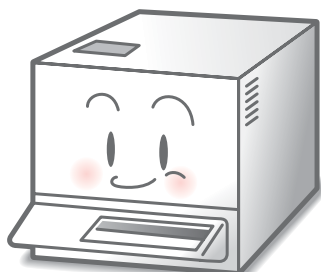
## ピロリ菌と 血小板数の検査



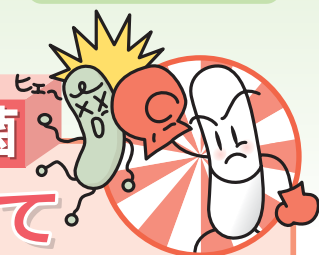
ピロリ菌の検査は数種類ありますが、当院で多く実施されているのが「尿素呼気試験」です。これはピロリ菌の特性を利用した検査でお薬を飲んで頂きその前後の息を採取するものです。

血小板数に関しては、機械で測定しますが一度数が少なく出たからといって直ちに血小板が減少したとはいえません。採血の仕方でも変わるときもあり、採血した血を入れる容器に入っている抗凝固剤によって試験管の中で凝集してしま

う場合も稀にありますので、全ての可能性を否定した上でなお変わらなければ、血小板が減少していることが確認できます。



## ピロリ菌 退治について



ピロリ菌検査の結果、ピロリ菌感染がわかり除菌療法を行なう場合、一般的に「抗生物質」2種類と「胃酸の分泌を抑える薬」1種類を1週間服用します。

菌を退治する抗生物質は2種類使用することでピロリ菌の除菌率が高まり、胃酸を抑える薬は胃酸を抑えることで抗生物質の効果を高めます。

この除菌療法中には、軟便、下痢、味覚異常の副作用が起こる場合がありますが、自己判断で回数や量を変えると除菌に失敗する場合がありますので、症状がひどい場合は医師に相談し指示に従って下さい。

この除菌療法を行なうと約90%の確率でピロリ菌を退治できますので正しい量を決められた期間服用して下さい。

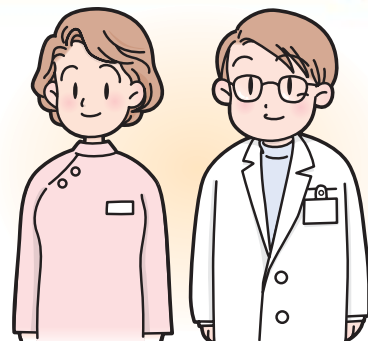


# 平成18年4月からの「完全土曜開院」のお知らせ

平成18年4月より、土曜日の外来診療を休診することになりますのでご了承願います。

なお、受診日の変更や開業医等への紹介については、それぞれの診療科でおこなっておりますので、医師、看護師等にお気軽にご相談下さい。

また、緊急時や体調がすぐれない場合は、救急外来で24時間受診できる体制をとっておりますので、そちらをご利用下さい。



## 子ども予防接種週間の実施について

通常の診療時間に予防接種が受けにくい方に対して予防接種を行います。また、種々の予防接種の相談にも応じますので気軽にお申し込み下さい。



### 実施日

3月3日(金) 午後2時～午後4時  
3月4日(土) 午前9時30分～午前11時30分  
3月6日(月) 午後2時～午後4時

### 対象

生後3ヶ月～7才6ヶ月未満の子ども及び予防接種をしていない保護者

**場所** 小児科外来

**予約** 電話にて予約が必要です  
平成18年2月28日締切

### 電話予約

月～金曜日(祝祭日は除く)午前9時～午後4時まで

**電話番号** 823-4171(内線2162)医事課まで

## 病棟保育士の紹介



金 誠美さん

当院では、働いているお父さん・お母さんをサポートし、少しでも心身の負担を軽減してもらうため、小児科病棟に専門の保育士を配置しております。

### 保育士から

「病児への付き添いや生活環境づくり(声掛け、スキンシップ、遊びの提供など)の他、保護者への育児相談等を行っています。困りごとや不明な点がございましたら、お気軽にご相談下さい。」

## 市立秋田総合病院

### 理念

市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けることを目指します。

### 基本方針

患者さんに信頼されるあたたかい、心の通い合う医療を行います。  
多様化する医療への要望に応えるために、常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院としての役割を果たします。  
患者さんの権利や意思を尊重し、十分な診療情報の提供と相互理解に基づく医療を行います。  
医療の安全のさらなる向上に努めます。  
良質な医療を提供していくために、健全な病院経営を目指し、業務の改善と効率的な運営に努めます。



平成18年2月23日発行(年4回発行)No.014